

宮 城 県 環 境 基 本 計 画

(第5期)

(中間案)

2027年〇月
宮 城 県



目次

背景ーなぜ、この計画が必要なのだろうかー	2	将来像の実現に向けた基本的な考え方	7
みんなで育てる未来	3	基本的な考え方を踏まえた宮城らしい取組	8
目指す環境の将来像ー2050年ー		将来像を実現するための取組	9
2050年に想定される社会変化	4	安全で良好な生活環境の確保	10
将来像を構成している県民の声	5	生物多様性の保全・回復ーネイチャーポジティブー	12
目指す環境の将来像ー2050年ー	6	循環型社会への移行ーサーキュラーエコノミーー	14
		地球温暖化への対策ーカーボンニュートラルー	16
		全ての主体の理解・参加の拡大	19
		計画の位置づけと推進体制、進捗管理	20

背景 ーなぜ、この計画が必要なのだろうかー

宮城の豊かな森や海の恵み、安全な水や空気は、先人たちから受け継がれ、私たちの暮らしを支えています。

私たちの暮らしが便利で豊かになる一方で、限りある資源やエネルギーの大量消費に伴う温室効果ガスの排出により地球温暖化が進み、酷暑や豪雨の増加など、私たちの生活や自然環境に影響が及んでいます。また、国際情勢の変化に伴う資源・エネルギーの安定供給への対応も重要な課題となっています。

人口減少をはじめとする社会の変化も進む中、豊かな自然の恵みや快適な暮らしを、次の世代へつないでいくためには、今だけでなく、その先の未来にも目を向ける必要があります。

この計画は、2050年の環境の将来像を示し、良好な環境の保全と創造に向かって、共に歩むための未来への道しるべです。

これまでの積み重ねを、2050年のビジョンへ



第1期計画
(1997年)

環境指標を整備し、
地域環境を数値化



第2期計画
(2006年)

目標指標を個別計画に委ね、
各主体の行動の重要性を促す



第3期計画
(2016年)

震災復興と
次世代エネルギーの推進



第4期計画
(2021年)

2050年二酸化炭素排出実質ゼロ
の実現を長期目標に位置づけ



ビジョン型

第5期計画
(2027年)



みんなで育てる未来

2050年の環境は、誰かがつくってくれる未来でしょうか。

——いいえ。地域に関わる一人ひとりがつくる未来です。県民、事業者、民間団体、教育機関、市町村、県。さまざまな人や組織が同じ未来を思い描き、それぞれの暮らしやなりわいの中でできることを続けた、その先にある未来です。

一人ひとりの小さな選択や取組がつながり、支え合うことで、安心して暮らし続けられる環境が育まれていきます。

そんなつながりの輪を広げながら、豊かな環境を次の世代へ受け継いでいきましょう。

連携・協働



2050年に想定される社会変化

近年、人口減少や気候変動、技術革新などにより、私たちを取り巻く環境や社会は大きく変化しています。2050年の社会を正確に予測することはできませんが、これから起こりうる変化も見据えながら、将来にわたり良好な環境を維持・形成していくため、2050年の環境の将来像を描きます。

いま、 社会で起きている変化

人口減少・高齢化

地域・産業・環境管理の
担い手が減少

暮らし・働き方の多様化

リモートワークの普及や
ライフスタイルの変化

気候変動の深刻化

暮らし・産業・生態系への
影響が拡大

脱炭素化・循環経済

カーボンニュートラルや
循環経済への移行が進展

技術革新

AI・IoT・ロボット等の活用が進み、
地域課題の解決やサービスが創出

これから、社会で起きる変化

※本図は、現時点で公表されている公的資料をもとに、2050年に向けて想定される社会変化を例示したものです。



ICT・AIを活用した栽培



ロボットを介した遠隔参加



自動運転技術の普及



遠隔の勤務・医療・教育



ICT・AIを活用した生産管理



サーキュラーエコノミー



AI等による予測型防災

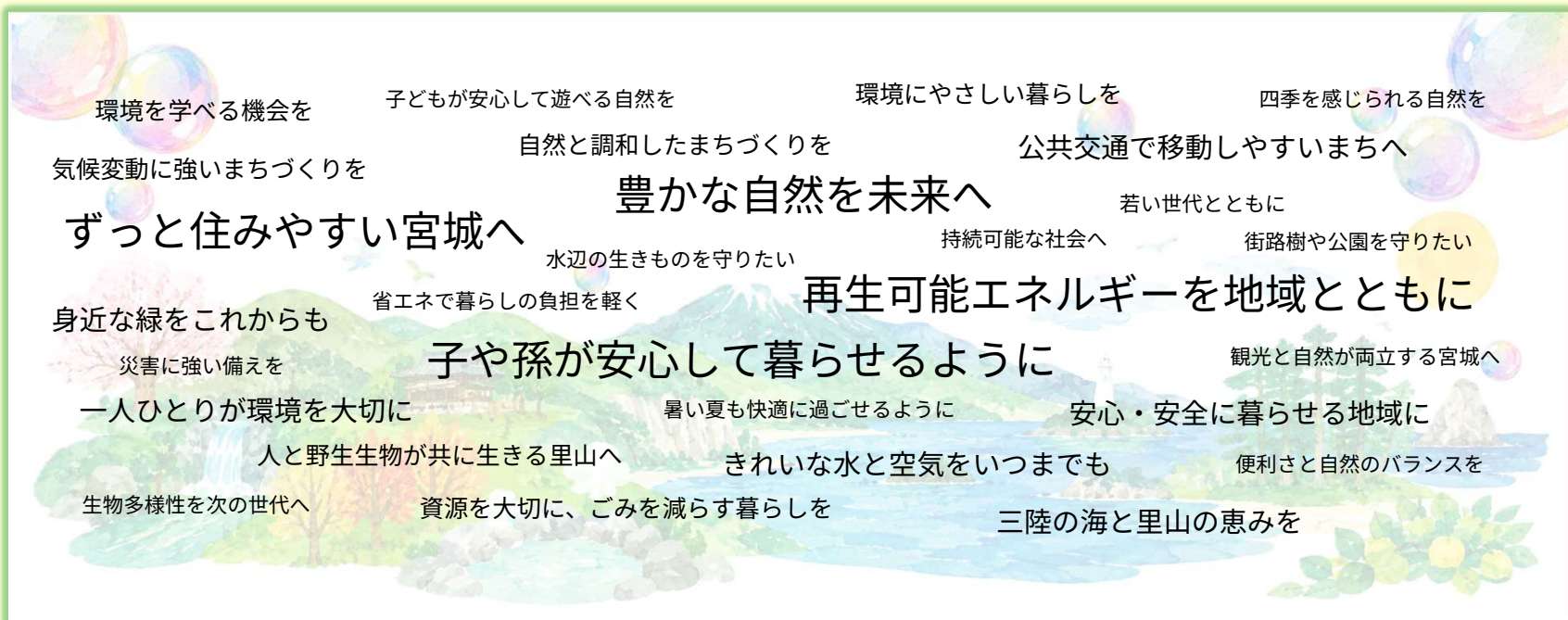


分散型クリーンエネルギー

こうした社会変化を踏まえ、宮城の豊かな森・里・川・海と、暮らしやなりわいを未来へつなぐため、
2050年の環境の将来像を描きます。

将来像を構成している県民の声

環境に関する県民・事業者アンケートを行い、県民18,724人、事業者292者からの声が集まりました。



目指す環境の将来像－2050年－



豊かな森と海の恵みが、里やまちの暮らしやなりわいを支え、
地域の魅力や活力を育んでいる。



こうした暮らしやなりわいを未来につなぐ
多様な選択肢を活かした責任ある行動が広がっている。



カーボンニュートラルと自然共生社会を実現し、
気候変動による影響が抑えられ、
だれもが安心して健やかに暮らしている。



この宮城を、みんなで次世代へ

将来像の実現に向けた基本的な考え方

宮城県では、目指す環境の将来像を実現するため、地域との共生や東日本大震災の経験と教訓などの本県の特徴やこれまでの積み重ね、県民及び事業者アンケートの結果等を踏まえて、次の5つの基本的な考え方に基づき取組を進めます。

考え方1

環境保全と 地域活性化の両立

自然環境や景観、暮らしを守りながら、環境保全と持続的な発展が両立する地域社会を目指します。



考え方2

地域循環と 自立分散

地域資源を生かし、資源の循環やエネルギーの地産地消を進め、地域の活力や災害・社会変化への対応力を高めます。



考え方3

環境・経済・社会の 統合的向上

一つの取組が、環境、経済や社会の課題も併せて解決し、一人ひとりの幸福につながることを目指します。



考え方4

理想の未来から 描く行動

将来あるべき姿を意識し、今なすべきことを考え、実行することで、豊かな自然の恵みや地域の魅力を次世代へ引き継ぎます。



考え方5

県民総ぐるみで 共に継承

県民・事業者・行政がそれぞれの立場で主体的に行動し、共に学び合いながら取組の輪を広げます。



基本的な考え方を踏まえた宮城らしい取組

宮城県には、豊かな海や森林、農林水産業や製造業、都市と自然が共存する地域環境、そして未来を担う人材（ポテンシャル）があります。こうしたポテンシャルを活かした取組を通じて目指す環境の将来像の実現につなげていきます。

ポテンシャル

豊かな海・森林

盛んな農林水産業

多様な製造業

都市と自然の共存

未来を担う人材

取組の例

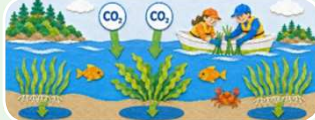
グリーン水素



地域と共生した再生可能エネルギー



ブルーカーボン



グリーンカーボン



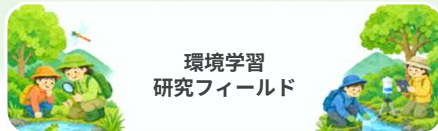
地域資源の循環



環境保全型農業



環境学習 研究フィールド



取組から生まれる多様な価値



将来像を実現するための取組

宮城県環境基本計画

2050年に向けた **ビジョン**

生物多様性の保全・回復

—ネイチャーポジティブ—

生物多様性を保全・回復し、
自然の恵みを将来へつなぐ



相互に関係し
相乗効果を発揮

全ての主体の理解・参加の拡大

学びと情報を通じて理解と参加を広げ、
多様な主体の連携・協働を促進



安全で良好な生活環境の確保

大気・水・土壌などの環境を保全し
健やかで安心して暮らせる環境を確保



地球温暖化への対策

—カーボンニュートラル—

気候変動の緩和と適応を推進し、
脱炭素社会を実現



循環型社会への移行

—サーキュラーエコノミー—

資源を無駄にしないモノの循環を進め、
循環型社会を形成



2050年の姿は、ひとつの取組だけでは実現できません。

安全で良好な生活環境を守ること。
豊かな自然を守り育てること。
限りある資源を循環させること。
地球温暖化への対策を進めること。

これらの取組はそれぞれ独立したものではなく、互いに
良い影響を与えながら、環境教育等による理解・参加の
拡大を進める取組が加わることでより大きな成果につな
がります。

安全で良好な生活環境の確保



2050年のあるべき姿

- 「深呼吸が気持ちいい日常」 — **澄んだ空気と、静かで落ち着いた環境が守られ**、子どもから高齢者まで、毎日健やかに暮らせる環境が保たれている。
- 「水と共に生きるやすらぎ」 — **身近な水辺や水環境が良好に保たれ**、子どもたちが安心して水にふれあい、地域の人々が水の恵みを感じながら暮らしている。
- 「安心して暮らせる生活」 — **化学物質や土壌汚染、地盤沈下などの心配が少なく**、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせる環境が整っている。
- 「知ることから始まる環境行動」 — **大気や水質など身近な環境の情報が分かりやすく届き**、必要なときに得られることで、この地域で暮らし、働く人々が一緒になって、**身近な環境について調べ、考え、行動**している。

施策の方向性



生活環境



生物多様性



循環型社会



地球温暖化



全ての主体の
理解・参加

良好な大気環境と水環境を 保全する

- 大気汚染の状況や川・湖・海、地下水の水質を継続的に把握し、環境の変化を的確に捉え、適切な対策につなげます。
- 暮らしに影響を及ぼすばい煙、悪臭の低減や水質汚濁の原因となる排水の適正な管理のため、工場や事業場への立入検査や指導を行います。

安心で快適な暮らしを支える

- 化学物質の適正な管理と分かりやすい情報共有を進め、暮らしの中の環境リスクを減らします。
- 土壌汚染を未然に防ぐとともに、汚染による健康影響が生じないよう汚染土壌の適切な管理や除去を進めます。
- 地盤沈下を防ぐため、市町村と連携した地下水位や地盤の状況の把握と地下水の適正な揚水利用を進めます。
- 交通騒音の継続的な監視、工場や事業場への立入検査などを通じて、静かで落ち着いた生活環境を守ります。

身近な環境を 守る行動を広げる

- 日々の暮らしの中で大気や水などの身近な環境への関心と理解を深めてもらえるよう、分かりやすい情報発信を進めます。
- 県民、事業者、行政が環境に関する情報を共有し、共に考え、学ぶ機会の充実を通じて、環境に配慮した主体的な行動を促します。
- 事業者による環境情報の発信を促し、自主的な環境配慮の取組を広げます。

生物多様性の保全・回復

—ネイチャーポジティブ—



2050年のあるべき姿

- 「自然と共に生きる」 — 山から海までつづく豊かな自然環境が守られ、そこに棲む生きものたちとのつながりを感じることでできる地域になっている。
- 「自然の恵みを活かすなりわい」 — 農林水産業、観光、商品・サービスに地域の自然の価値が活かされ、自然と経済活動が調和する地域が広がっている。
- 「学んで選ぶ、自然を守る行動」 — 県民、事業者、行政が身近な自然の価値を理解し、それぞれが楽しみながら守る活動に参加することで、次の世代にも豊かな自然が引き継がれている。

施策の方向性



生活環境



生物多様性



循環型社会



地球温暖化



全ての主体の
理解・参加

豊かな自然を守る

- 伊豆沼・内沼や蒲生干潟などの保護地域で、生きものの生息・生育環境の保全と再生を進めます。
- 自然共生サイトの認定支援などを通じて、企業や団体など多様な主体による自然を守る取組を広げます。
- 野生動植物の生息・生育環境の保全と外来生物の防除を進め、絶滅のおそれがある在来生物種数を減らします。
- 開発や産業活動に対して、自然への配慮を促します。
- 健全な水環境を守るため、森や川などの自然環境の保全や親しみやすい水辺空間づくりを進めます。

自然の恵みを 地域の価値としごとにつなげる

- 里地里山や里海など、地域ならではの自然や文化を守りながら、その恵みを生かした農林水産業や観光の活性化を進めます。
- 環境ラベルの導入など、自然の恵みを生かした付加価値の高い商品・サービスづくりを支援します。
- 宮城の美しい自然環境の維持や地域固有の美しい景観との調和を意識した社会資本整備・グリーンインフラの整備を進めます。
- 森や湿地など自然の持つ力を防災や気候変動への備えに生かし、しなやかで強い地域をつくります。

身近な自然を理解し、 楽しみ守る行動を広げる

- 生物多様性の価値や、身近にできる行動についての情報発信を進めます。
- エコラベルなど環境に配慮した商品を選ぶ行動を広げます。
- 自然体験や環境学習の場を設け、県民一人ひとりの生物多様性の保全に対する意識を醸成します。
- 多様な主体による自然を守り、育み、活かす活動への参加を広げます。

循環型社会への移行ーサーキュラーエコノミーー



2050年のあるべき姿

- 「巡るモノづくりで広がる循環」ー **モノを長く大切に使い、使い終えたモノが新たな資源・価値として生まれ変わる仕組みが広く構築**され、浸透し、循環する地域経済が形成されている。
- 「ごみを減らす心地よい工夫」ー 生活や産業のあらゆる場面で**ごみにしない工夫が当たり前**に定着し、**資源を無駄なく活用する新しいスタイル**が社会全体に広がっている。
- 「安心を支える確かな処理」ー **平常時も災害時も、ごみが迅速・適正に処理される体制が整い**、衛生的で安心して暮らせる地域環境と豊かな自然が守られている。

施策の方向性



生活環境



生物多様性



循環型社会



地球温暖化



全ての主体の
理解・参加

モノと資源を最大限に活用した循環する地域経済をつくる

- 限りある資源を活かす製品の設計から廃棄物の再利用・再資源化まで、モノづくりの循環型ビジネスへの転換を支援します。
- リユース（再使用）やリペア（修理）などのサービスの普及促進に向けた取組を進め、県民が循環型の暮らしを選びやすい環境を整えます。
- AIなどの革新的な技術を活用し廃棄物・リサイクル産業の高度化を支援することで、質の高い再生資源を地域に提供し循環させる仕組みをつくります。

ごみにしない工夫が当たり前の社会をつくる

- 使い捨て製品の使用削減や再生材・代替素材への転換を事業者や市町村と共に進めます。
- 家庭から出る再利用が可能な廃棄物の分別回収を進めるとともに、誰もが迷わず分別できる、分かりやすい資源循環の仕組みづくりを進めます。
- 買い物や外食の場面での食品ロスの削減を事業者や県民と一体となった県民運動として広げていきます。
- 規格外品などまだ食べられる食品を必要としている人や場所に届けられる仕組みづくりを進めます。

平常時も災害時も、ごみが迅速・適正に処理される体制をつくる

- 人口減少などの変化を見据えたごみ処理の広域化・集約化を計画的に進め、将来にわたり持続可能な処理体制をつくります。
- 革新的な技術の活用などによる不法投棄の監視と、大規模災害に備えた災害廃棄物を迅速に処理できる体制づくりを進めます。

地球温暖化への対策－カーボンニュートラル－



2050年のあるべき姿

- 「地域で育むエネルギー」－ **地域資源から生まれた持続可能なエネルギーや水素・アンモニアなどの次世代の脱炭素燃料の利活用**が、都市部や農山漁村などあらゆる地域を支え、変化する社会の中でも誰もが安心して暮らしている。
- 「環境への取組が生み出す地域の活力」－ **環境に配慮した経営が企業価値を高め**、その成果や魅力が地域に循環している。
- 「我慢なく続く責任ある選択」－ 日々の暮らしやなりわいの中で、**環境に配慮した取組が無理なく選択できる仕組みが構築**され、社会全体で環境負荷が軽減されている。
- 「暮らしと地域の恵みを未来へつなぐ」－ **気候変動への対策が進み、酷暑や豪雨による被害が最小限に抑えられ**るとともに、**農林水産業の持続的な発展**が図られ、自然の恵みを生かしたなりわいが将来にわたって受け継がれている。

施策の方向性



生活環境



生物多様性



循環型社会



地球温暖化



全ての主体の
理解・参加

地域資源から生まれた持続可能なエネルギー の地域利活用の拡大

- 沿岸部、平野部、中山間地域、都市部など、それぞれの地域特性を活かし、多様な地域資源や社会基盤を活用した再生可能エネルギーの導入・利用を進めます。
- 地域でつくったエネルギーを地域で使い、自然災害や社会変化にも対応できるエネルギー利用の仕組みづくりを進め、地域の活力向上につなげます。
- エネルギー設備の導入にあたっては、地域住民をはじめとする多様な主体が対話を通じて理解を深め、それぞれが主体的に関わりながら、景観や生態系との調和や、森林等が有する防災機能の確保を図ります。

水素やアンモニアなど 次世代の脱炭素燃料の利活用拡大

- 再生可能エネルギーから次世代の脱炭素燃料（グリーン水素など）を、地域でつくり、運び、使う仕組みづくりを進めます。
- 家庭・事業所・物流・港湾などにおける次世代の脱炭素燃料の導入を進め、災害時にもエネルギーが途切れない地域づくりにつなげます。
- 走行時に二酸化炭素を出さない次世代モビリティの普及を進めます。

施策の方向性



生活環境



生物多様性



循環型社会



地球温暖化



全ての主体の
理解・参加

環境への取組を 地域の産業の力に変える

- 地域資源から生み出したエネルギーを活用して、産業の脱炭素化を進めるとともに、生み出された環境価値を活用し、産業や地域の高付加価値化、競争力の向上につなげる取組を進めます。
- 技術革新や新たな社会の動きを柔軟に取り入れるため、環境産業への研究開発支援を行うなど、環境と経済の好循環を創出します。

環境に配慮した 無理のない選択



- 県民・事業者・団体・行政などが連携し、暮らしや事業活動の脱炭素化を推進するとともに、分かりやすく情報を発信します。
- 暮らしや事業活動におけるエネルギー消費や移動など日々の行動の中で、環境にやさしい選択が広がるよう、無理なく取り組める仕組みづくりを進めます。

気候変動対策を行い、 暮らしと産業を守る

- 県民や事業者に、熱中症予防など健康への影響を踏まえた取組を推進するとともに、分かりやすく情報を発信します。
- 影響予測を進めるとともに、異常気象の影響を大きく受ける農林水産業等関係する産業分野への被害を回避・軽減する取組を推進します。
- 森林の整備や木材利用による長期間の炭素貯蔵、三陸の海の藻場づくりなどのグリーン・ブルーカーボンの取組を進めます。

全ての主体の理解・参加の拡大



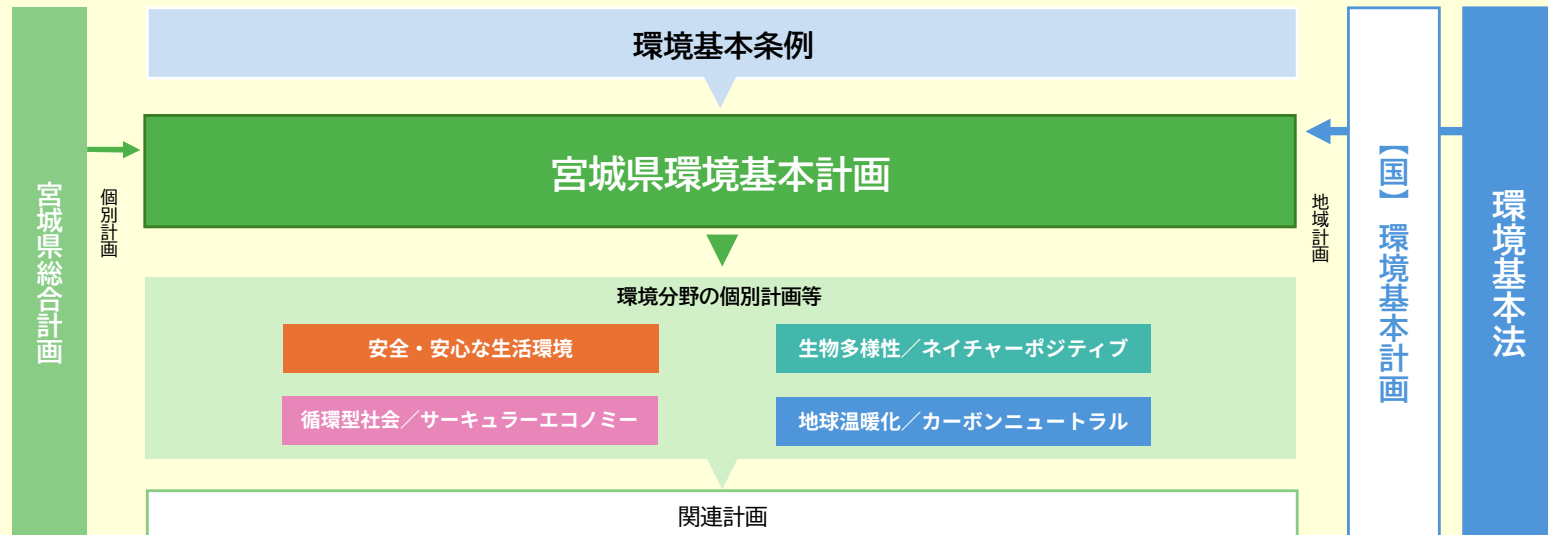
2050年のあるべき姿

- 「学びが暮らしに根付く」— 学校・地域・家庭での体験や学びを通じて、**子どもから大人まで環境を自分ごととして捉え、環境に配慮した行動が日々の暮らしの中に自然に根付いている。**
- 「環境を守る責任、未来への仕事」— 働く人や事業者が、自然の恵みを生かし、資源を大切に使う知識や技術を身につけ、**環境に配慮した仕事や産業が受け継がれている。**
- 「地域で育つ人の輪」— 宮城の自然や、地域の多様なフィールドを活かしながら、大学や研究機関、環境団体、企業、行政など多様な主体が連携し、**環境学習や環境保全活動を支える人材が育ち、ネットワークが広がっている。**
- 「ワクワク語る、未来の対話」— 地域住民をはじめとする多様な主体が、環境が暮らしやなりわいの基盤であることを実感し、未来への希望やワクワク感を持って**地域の未来を語り合う対話の文化が育まれ、持続可能な地域社会を共につくっている。**

計画の位置づけと推進体制、進捗管理

本計画は、環境基本条例に基づき、良好な環境の保全及び創造に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画として定めるものです。計画期間は、2027年度から2050年度までとします。

本計画の進捗は、関連する個別計画等において設定された目標や指標、評価手法により確認します。また、宮城県環境白書に取りまとめ、公表するとともに、取組を推進していきます。



2050年のその先へ

あなたは、
どんな宮城を次の世代に手渡したいですか。

森から里へ、里から海へ。

人の暮らしと自然がつながるこの宮城を、
2050年のその先へ受け継いでいくために。

未来は、遠くにあるものではなく、
今日の小さな選択の積み重ねからつくられていきます。

この宮城を、みんなで受け継いでいくために。
今日できることから、共に始めていきましょう。

